

ほうでえ～

ありゃ～のう

周防大島町の話題



▶園児や関係者に見送られて初荷が出發しました



▶東京の大田市場でPR活動を行う椎木町長と吉村組合長

ゆめほっぺ出荷はじまる トップセールスも

ゆめほっぺ（せとみ）の選果が久賀のJA山口大島柑橘選果場で始まり、3月15日、初荷出発式が行われました。

せとみは清見と吉浦ポンカンを掛け合わせて育成された山口県オリジナル柑橘で、せとみの中でも糖度13・5度以上、酸度1・35%以下のものを「ゆめほっぺ」として出荷しています。

今年は、寒波前の一斉採取や徹底した貯蔵管理により高品質に仕上がっており、昨年並みの220トンを出荷を見込み、4月中旬まで県内をはじめ京阪神、長野、福岡の市場へ向けて出荷されます。

また、初荷の出荷にあわせ、3月17日には東京の大田市場において、椎木町長とJA山口大島の吉村組合長が産地を代表してPR活動を行うトップセールスを行いました。ゆめほっぺは「しあわせはこぶ春みかん」のキャッチフレーズで売り出しており、濃厚な味わいと独特の食感市場でも好評で、消費者からの商品の引き合いも年々増加しています。販売金額は2年続けて1億円を突破しており、JA山口大島では平成35年までに生産量を現在の2倍となる500トンを目指しています。

神代桜 1000年のロマン

樹齢2000年ともいわれ、日本三大桜の一つにも数えられる山梨県北杜市にある国の天然記念物、山高神代桜の子桜が周防大島に寄贈されることになり、3月18日、瀬戸公園で記念の植樹祭が開かれました。

これは、この桜の持つ太古の力を周防大島にも根付かせたいと、有志の方々が発案。

この桜の桜守で子桜を育成している三枝基治さんに依頼し、その熱意を伝え実現したもので、高さ1.5mほどの子桜が瀬戸公園と、屋代ダム公園に1本ずつ植えられました。

周防大島の山高神代桜が人々の手から手へ、百年、千年と受け継がれ、たくさんの人の心を和ませます大きな桜になってほしい…。壮大なストーリーに夢は膨らみます。



▶桜守の三枝さんから育成の手ほどきを受けました



町東部の拠点 東和庁舎が完成

町東部地域の拠点となる東和庁舎が平野の東和総合センターそばに完成し、4月1日、関係者らの出席のもと開庁式が行われました。

東和庁舎は軽量鉄骨造2階建て1階には役場東和総合支所、2階には教育委員会総務課と学校教育課が入り、東和地域の窓口と教育行政の本部事務所として広く利用されます。

▲テープカットで完成を祝う（左から）西川敏之教育長、椎木巧町長、荒川政義町議会議長、久保雅己町議会議長、総務文書主任委員